

令和5年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生, 中学校3年生
- 3 実施教科 国語, 算数・数学, 英語(中学校)
- 4 調査内容 ①教科に関する調査(国語, 算数・数学, 英語)
知識・技能等に関する問題と活用する力等に関する問題
②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 令和5年4月18日(火)
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

| | | |
|--------------|---------|---------------------------|
| 全国(国公立私立小学校) | 18,821校 | (実施率 99.1%..... 977,345人) |
| 秋田県公立小学校 | 177校 | (実施率 100.0%..... 6,146人) |
| 全国(国公立私立中学校) | 9,702校 | (実施率 94.3%..... 923,981人) |
| 秋田県公立中学校 | 107校 | (実施率 100.0%..... 6,395人) |

Ⅱ 教科に関する調査結果

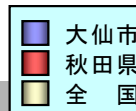
1 概要

○中学校では、全ての教科が本県の平均正答率と同程度か上回っていることから、良好な状況にある。小学校は全ての教科で全国平均正答率を上回っていた。

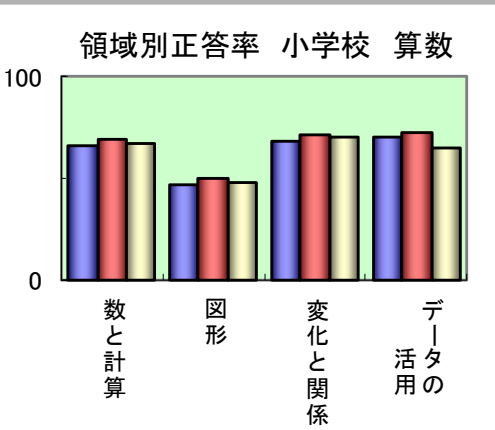
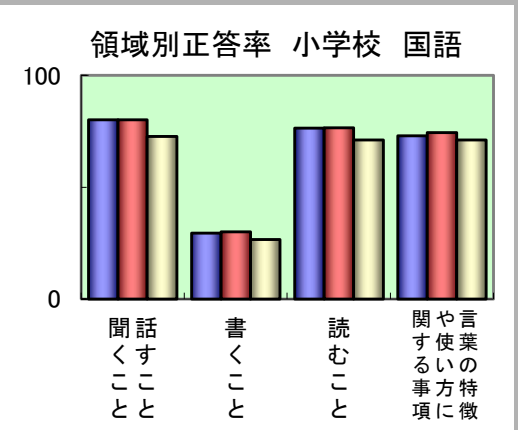
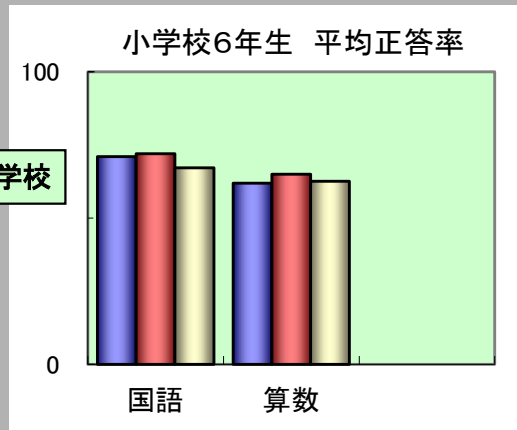
●教科別・領域別平均正答率の状況から見ると、算数・数学に課題が見られる。小学校は、「データ活用」領域において全国・県平均を下回っており、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して考察できるようにすることが大切である。また中学校は、「図形」領域で全国平均を下回っていた。図形の性質を見いだし、それが成り立つ理由を数学的に説明できる活動を充実していく必要がある。

2 結果

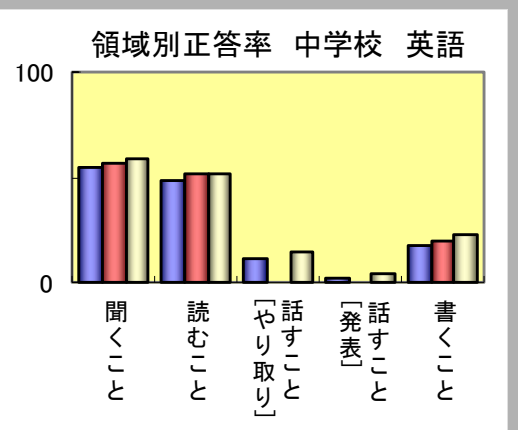
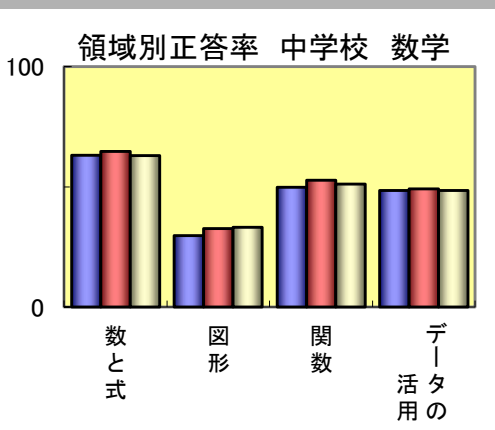
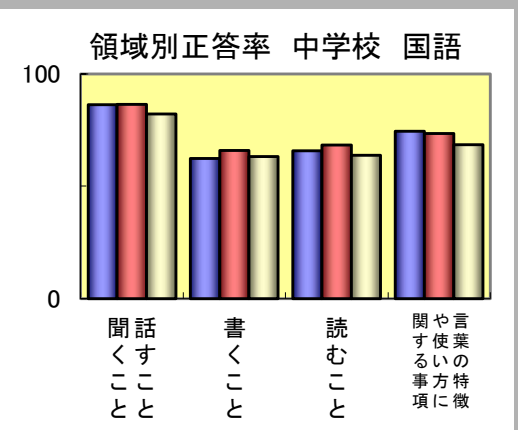
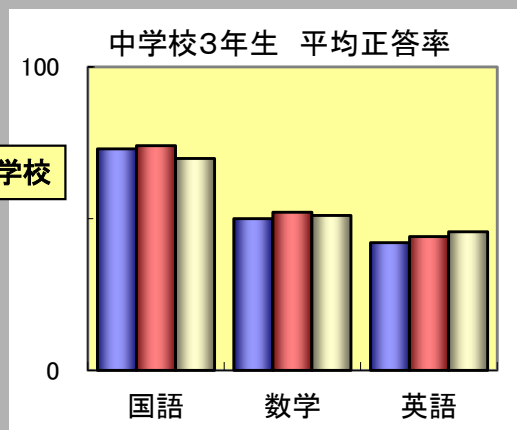
【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

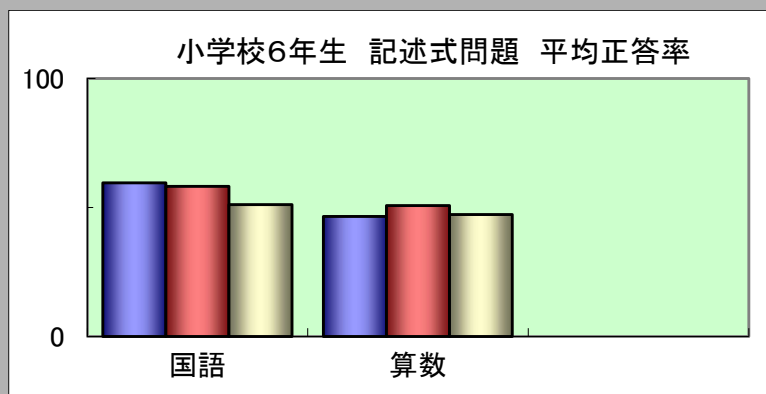
1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

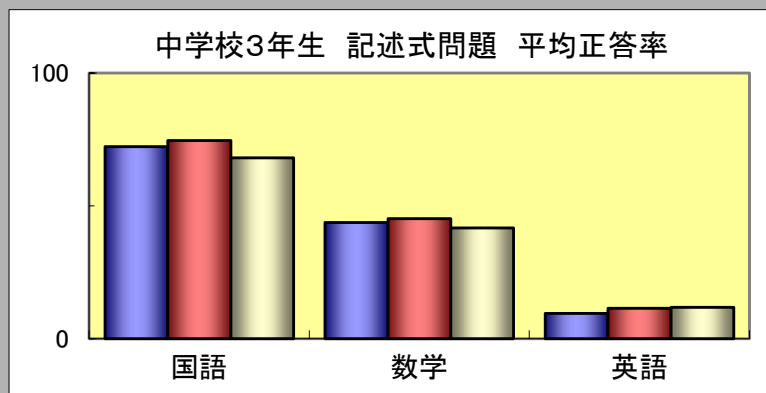
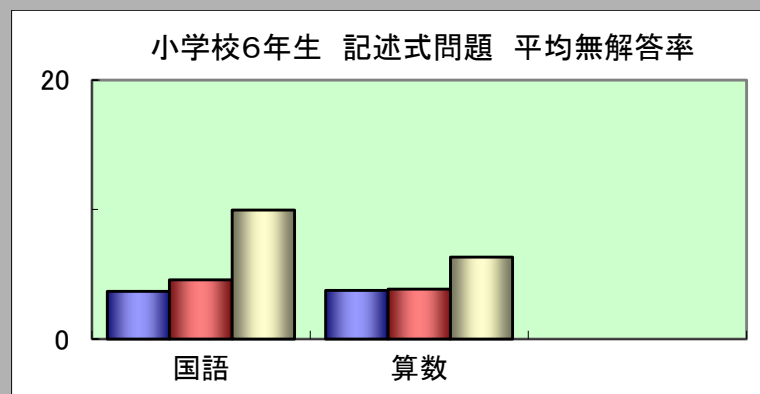
○記述式問題については、中学校は全ての教科が本県と全国の平均正答率上回っている。小学校は全ての教科で全国の平均正答率を上回っている。

○無解答率については、小学校・中学校共に、多くの設問で全国や本県よりも低く、概ね良好な状況が維持されている。小・中学校ともに、記述式問題においてほとんどの児童生徒が解答している状況である。

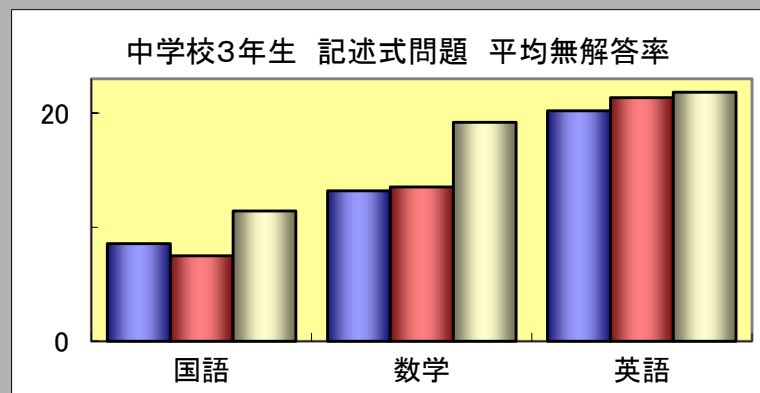
【資料2】記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、チームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表したり話し合ったりする活動を取り入れた児童生徒主体の対話的な授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠を基に説明したりする授業など、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用やタブレット端末の活用、小・中連携による9年間を見通した指導などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用や教科担任制による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

⑤ 各学校の取組を支援する県・市の施策を積極的に活用し、推進している。

- 県の学習状況調査事業やICTを活用したあきたの教育力充実事業等、県の学力向上に係る施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 地域学校協働活動本部事業などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中学生サミット」（生徒会活動とSDGs～地域、いじめ・差別、ボランティア・災害～、SNSルールや使い方等）の実施、体験的学習時間支援事業の実施、学校生活支援員、複式学級支援員等の配置
 - ・市教職員研究集会、教職員研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員会訪問、指導主事訪問 など）
 - ・国際教養大学、県立高等学校、県立特別支援学校等との交流・連携
 - ・「大仙ふるさと博士育成」事業、大仙グローバルジュニア育成事業、人権ユニバーサル事業の実施
 - ・大仙教育メソッドに基づく各種連携の推進

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

- 小学校は、国語の「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」ことに課題がある。算数の「数と計算」の領域では、県平均正答率を下回る問題があった。理科の「エネルギー」を柱とする領域では、全国及び県と同様に平均正答率の低い問題があった。
- 中学校の国語においては、「我が国の言語文化に関する事項」について本県の平均正答率を下回る問題がある。数学の「図形」領域において、全国より低く県と同様に平均正答率が低い問題がある。理科の「エネルギー」を柱とする領域では、全国及び県と同様に平均正答率が低い問題や国や県の平均正答率を下回る問題があった。

課題がみられた問題例（国語）

【カード①】
6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・雑草が増えたら米のしゅうかくに
うするのではないかと心配だ。

【川村さんの考え】
雑草が増える問題
していたカードの
問題点とその解決
法

【川村さんの考え】
川村さんは、学
校の田んぼに雑草が
増えたら米のしゅう
かくにうするのでは
ないかと心配だ。

＝国語の課題と改善に向けて(小学校)＝
※県の平均正答率を下回った問題

■R4年度の調査結果に基づく主な課題

- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題が見られる。
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・物語の全体像をとらえるには、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像などを豊かに想像することで可能となる。
- ・「何が書かれているか」という内容面だけではなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読み、物語全体を捉えられるようにしたり、着目した複数の叙述を基に考えたことを交流する場面を設定したりすることが効果的である。

※県の平均正答率を下回った問題

【小学校国語 ① 二】

全国平均正答率 26.7%
県平均正答率 30.1%

○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

小国-1

小国-3

※全国及び県の平均正答率を下回った問題

【中学校国語 ③ 一】

全国平均正答率 54.3%
県平均正答率 55.5%

○読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。

【判じ絵】について
山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもた、詳しく調べることにした。

山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートに
トの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

判じ絵の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生

判じ絵の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生

判じ絵の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生

＝国語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■R4年度の調査結果に基づく主な課題

- ・行書の特徴についての理解に課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く時は、特徴を理解させながら書く指導をする必要がある。その際、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。

中国-13

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

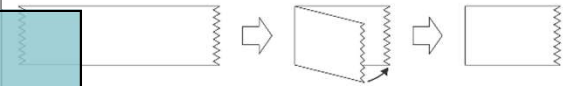
2

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープのはばはどれも等しくなっています。

(3) えいたさんたちは、下のようにつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。



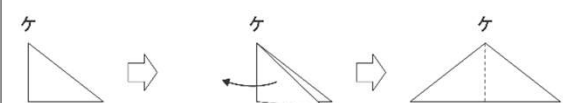
② 右の図のように、折り目のはしを点ケとします。



③ 折って重ねたまま、点ケを通るななめの直線で切ります。



④ 開くと三角形ができました。



課題がみられた問題例 (算数・数学)

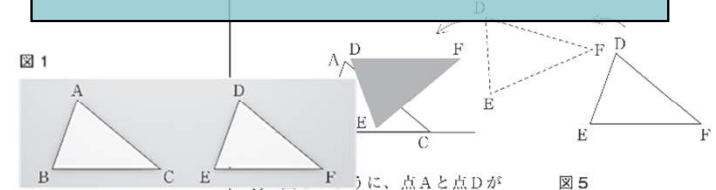
③ 空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1点を
- イ 2点を
- ウ 1つの直線
- エ 1つの直線上にない3点を

※全国及び県の平均正答率を下回った問題
【中学校数学 3 9 (1)】
全国平均正答率 30.4% 32.1%
県平均正答率 28.1% 30.3%

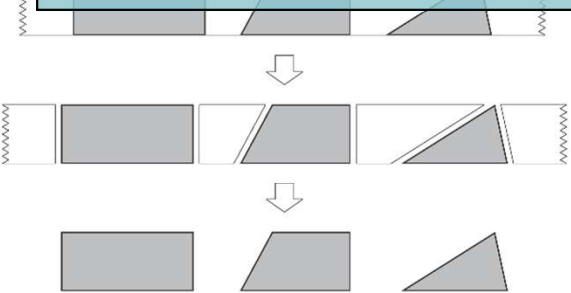
○空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している。
○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。

⑨ 次の図1の△ABC≡△DEFを証明してください。



※全国及び県の平均正答率を下回った問題
【小学校算数 2 (3) 2 (4)】
全国平均正答率 24.9% 20.8%
県平均正答率 23.5% 21.9%

○正三角形の意味や性質について理解している。
○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる



＝算数の課題と改善に向けて(小学校)＝
※県の平均正答率を下回った問題

■R4年度の調査結果に基づく主な課題

- ・数と計算の領域で、学習したことを基に、目的に応じて数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考えることに課題が見られる。
- ・割合を用いて問題を解決するために、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や伴って変わる二つの数量の関係について考察して、数学的に表現・処理することに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにする。
- ・日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを理解できるように指導する。

＝数学の課題と改善に向けて(中学校)＝
※県の平均正答率を下回った問題

■R4年度の調査結果に基づく主な課題

- ・数と式の領域で、伴って変わる二つの数量の変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べるため変化の割合を求めることに課題が見られる。
- ・図形の性質を考察する場面で、成り立つと予想した事柄について論理的に考察し、それを数学的に表現することに課題が見られる。

□指導改善の主なポイント

- ・具体的な事象について、伴って変わる二つの数量x, yの変化や対応を捉え、それらの関係を数学的に表現できるようにする。
- ・結論を導くために、何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、数学的に説明できるように指導する。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

課題がみられた問題例（英語）

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

※全国と県の平均正答率を下回った問題

| | |
|-------------------|------|
| 【中学校 英語 8 (2) 10】 | |
| 全国平均正答率 19.5% | 7.4% |
| 県平均正答率 16.3% | 6.6% |

○社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。

○日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

＝英語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■R4年度の調査結果に基づく主な課題

- ・静止している物体に働く重力と釣り合う力を表すことに課題がある。
- ・化学変化と「エネルギー」を柱とする領域に関する知識及び技能を関連付け、分析して解釈することに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、釣り合いの関係を説明する学習場面を設定することが考えられる。
- ・水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化には、電気、熱、光など「エネルギー」を柱とする領域が関連していることに気付かせる指導をする。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 児童生徒主体の授業づくりや、達成感・自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで学ぶ意欲が高まるとともに、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている。

2 結果

(1) 学習状況

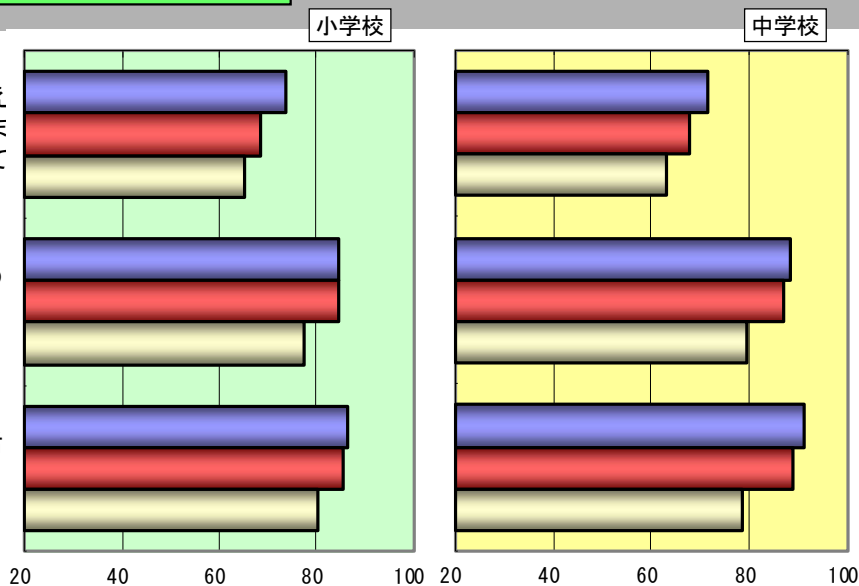
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料3】「主体的・対話的で深い学び」の経験

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

友達（児童生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思う



前年度までの授業について

- 考えを発表するときには、相手意識をもって、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 課題解決に向けて、主体的に学ぶことに取り組んでいたと回答している児童生徒が、全国や本県を上回っている。
- 「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、学習活動の質が高まってきている。



IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料4】家庭学習の様子

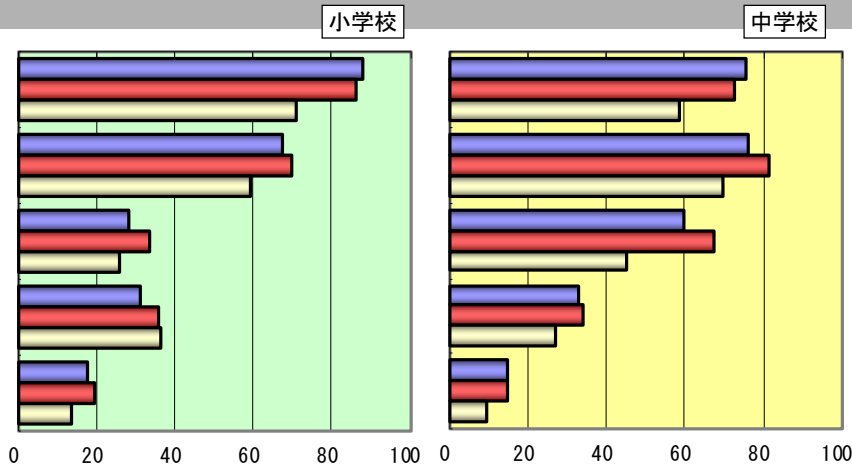
家で、自分で計画を立てて勉強をしている

学校の授業時間以外での平日の勉強時間
(1日1時間以上)

学校の授業時間以外での休日の勉強時間
(1日2時間以上)

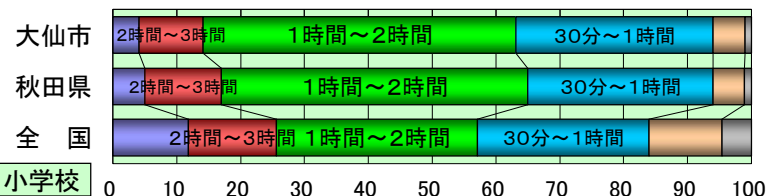
家や図書館での平日の読書の時間
(1日30分以上)

新聞を読んでいる
(週1回以上)

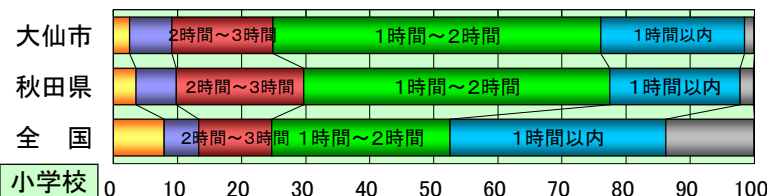


○小・中学生共に自ら学ぶ姿勢が身に付いている。
○平日及び休日の学習時間が「1時間以上」の割合は、全国や本県の平均と同程度か上回っており、「全くしない」の割合は少ない。家庭でも計画的に学習に取り組んでいる様子が見られる。
●平日、1日30分以上の家や図書館での読書時間や週1回以上新聞を読んでいる割合は本県や全国の平均と同程度か上回っている。しかし、「読書を全くしない」児童生徒が2割、「ほとんど、あるいは全く新聞を読まない」児童生徒が5～6割おり、学校や家庭での読書時間の確保や授業における新聞の利用など工夫が必要である。

【資料5-1】平日の学習時間



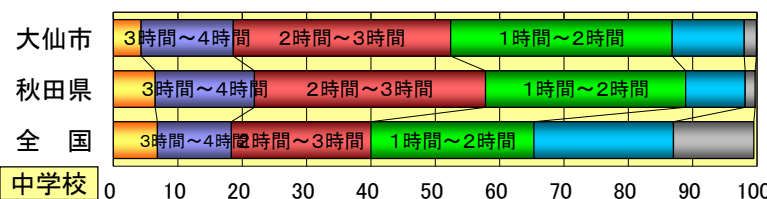
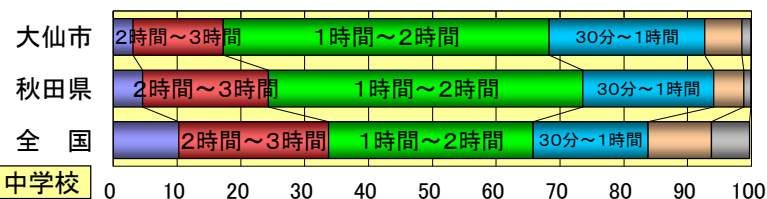
【資料5-2】休日の学習時間



【資料6】平均学習時間

【単位：分】

| 小学校 | 平日 | 前年度比 | 休日 | 前年度比 |
|-----|-----|------|-----|------|
| 大仙市 | 110 | 0 | 130 | 0 |
| 秋田県 | 110 | 0 | 130 | -10 |
| 全国 | 110 | 0 | 110 | 0 |



| 中学校 | 平日 | 前年度比 | 休日 | 前年度比 |
|-----|-----|------|-----|------|
| 大仙市 | 90 | -30 | 120 | -50 |
| 秋田県 | 120 | -10 | 160 | -20 |
| 全国 | 120 | 0 | 130 | -10 |

平日
 3時間以上 (紫) 2～3時間 (赤) 1～2時間 (緑) 30分～1時間 (青) 30分未満 (茶) 全くしない (灰)
 休日
 4時間以上 (黄) 3～4時間 (紫) 2～3時間 (赤) 1～2時間 (緑) 1時間未満 (青) 全くしない (灰)

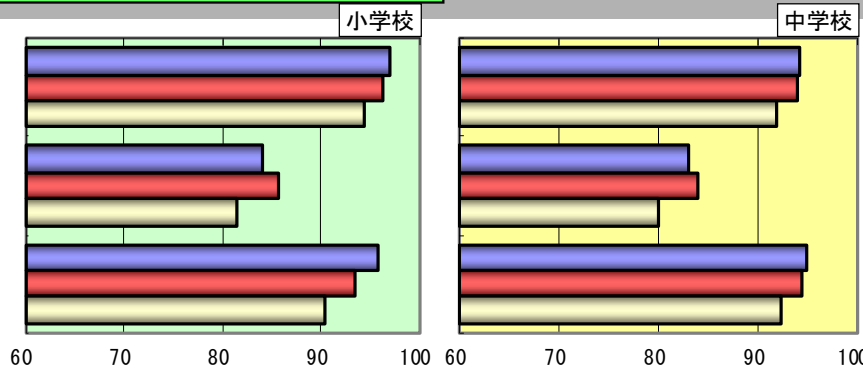
IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (3) 生活習慣

【資料7】基本的な生活習慣等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

- 朝食を毎日食べている
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている



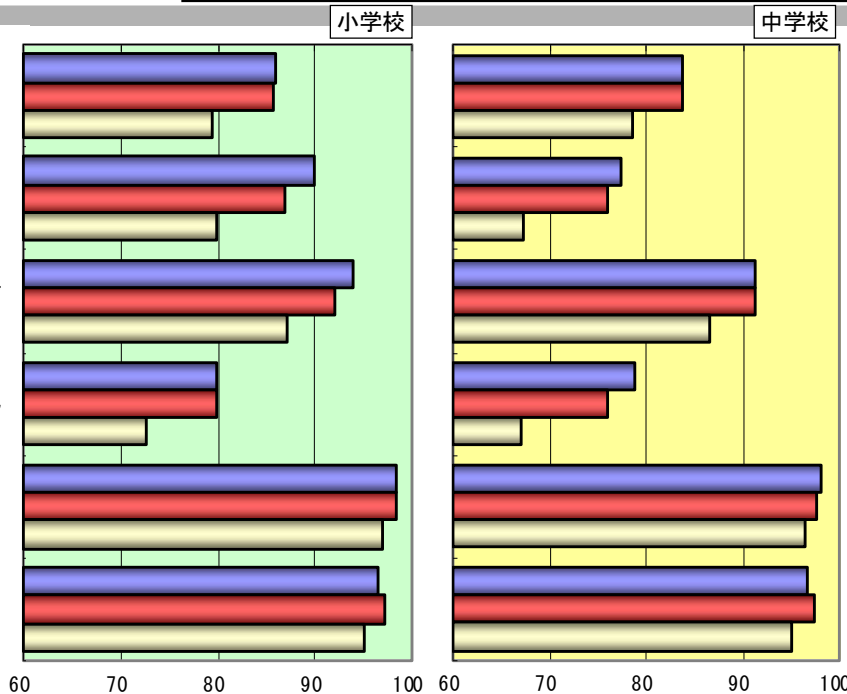
○早寝、早起き、朝ごはんによって代表される生活習慣に関する項目で、国の平均を上回ることが多く、良好な状況にあり、家庭での子どもへの意識付けや教育がなされている。また、学校との連携が図られていることがうかがえる。



2 - (4) 自己肯定感, 規範意識等

【資料8】自己肯定感, 自己有用感, 将来への目標, 規範意識等

- 自分には、よいところがある
- 将来の夢や目標を持っている
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- 人の役に立つ人間になりたいと思う



○自己肯定感や自己有用感、夢や目標を持つことに関する項目で、小・中学校共に良好な状況にある。互いを認め合う学習環境の中で、児童生徒が目標をもって学んでいることの成果と捉えられる。

○自分でやると決めたことは、やり遂げようとしていたり、難しいことにも挑戦したりする児童生徒の割合が多い。また、いじめはどんなことがあっても許さない、人の役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

●自己肯定感や自己有用感、夢や目標をもつことについては、年齢が上がるにつれて割合が下がる傾向にある。小中連携で個々のよさを認められるように引き継ぎを行っていききたい。

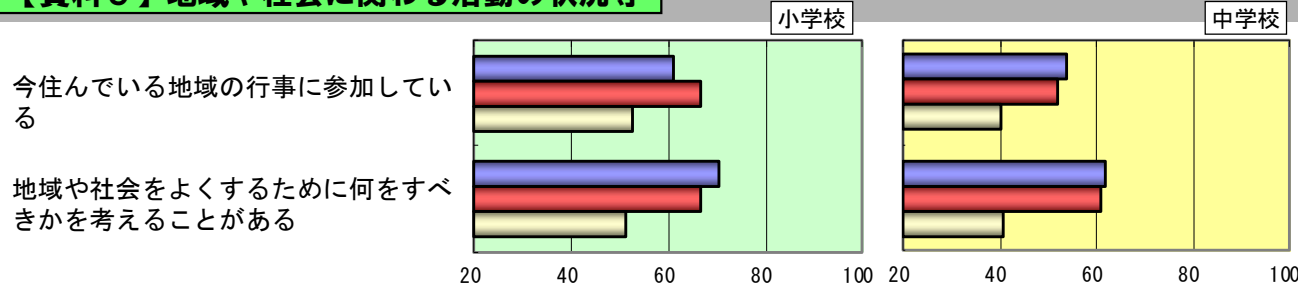


IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (5) 地域への関心, ICTの活用状況

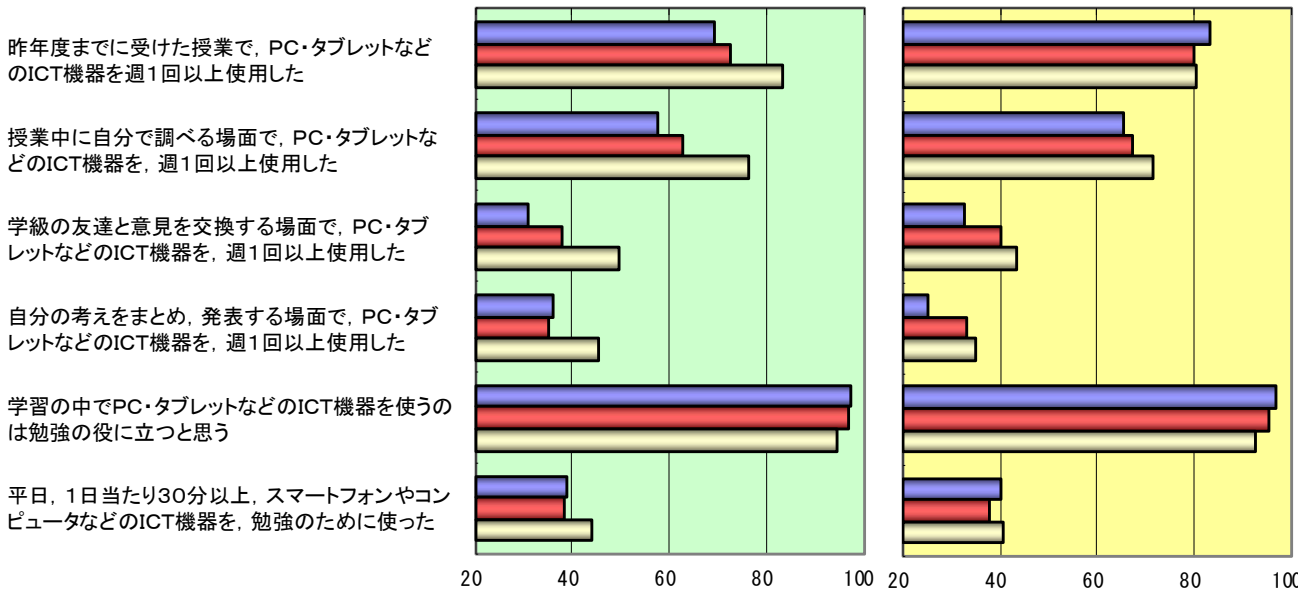
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県全国の比較】
児童生徒質問紙調査結果より

【資料9】地域や社会に関わる活動の状況等



- 地域行事に参加している児童生徒の割合は、小学校において秋田県平均を下回っている。中学校では上回っている。コロナ対策を講じながら、小学校では地域連携の再構築が必要である。
- 中学生サミットを通してSDGsやSNSルールづくり等を進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域活性化に寄与できる児童生徒の育成を進めていきたい。

【資料10】PC・タブレットなどのICTを活用した学習状況



- ICTを活用した学習状況や家庭におけるICT活用に係る項目では、秋田県平均を上回っている項目もあるが、全国平均と比較すると大きく下回っている。GIGAスクール推進の本格的始動から2年目、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けて、より積極的な活用を推進していく必要がある。

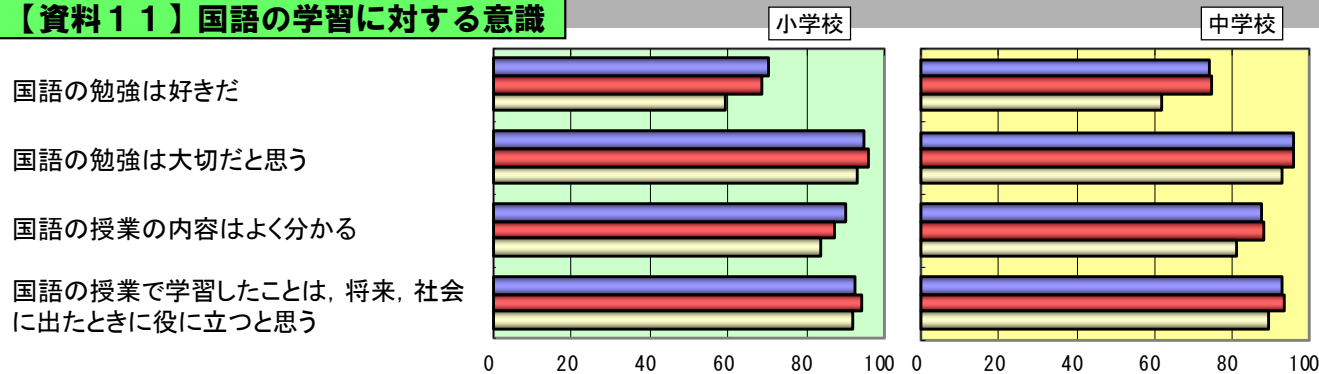


IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (6) 教科の学習に対する意識

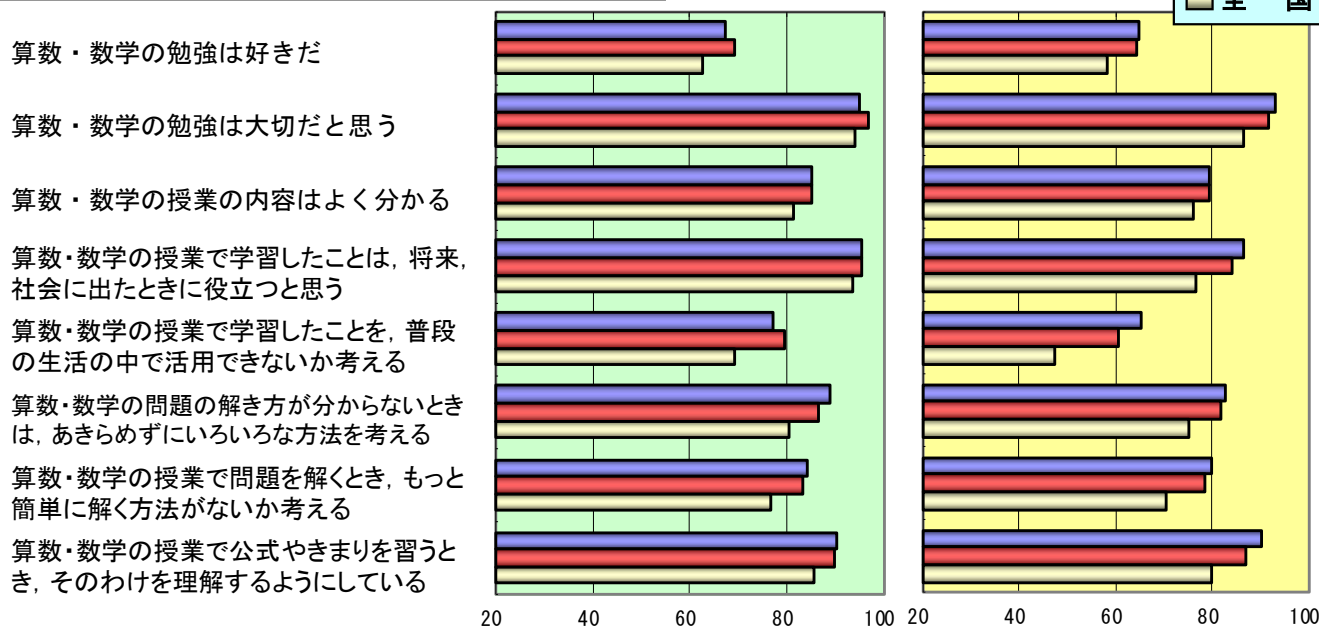
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の
市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料11】国語の学習に対する意識



- 国語に関するほぼ全ての質問項目において、全国や本県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・「国語の勉強は大切だと思う」
 - ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」
- 「国語の授業内容はよく分かる」から、先生方の授業改善等により児童生徒の理解度が高まっていることがうかがえる。

【資料12】算数・数学の学習に対する意識

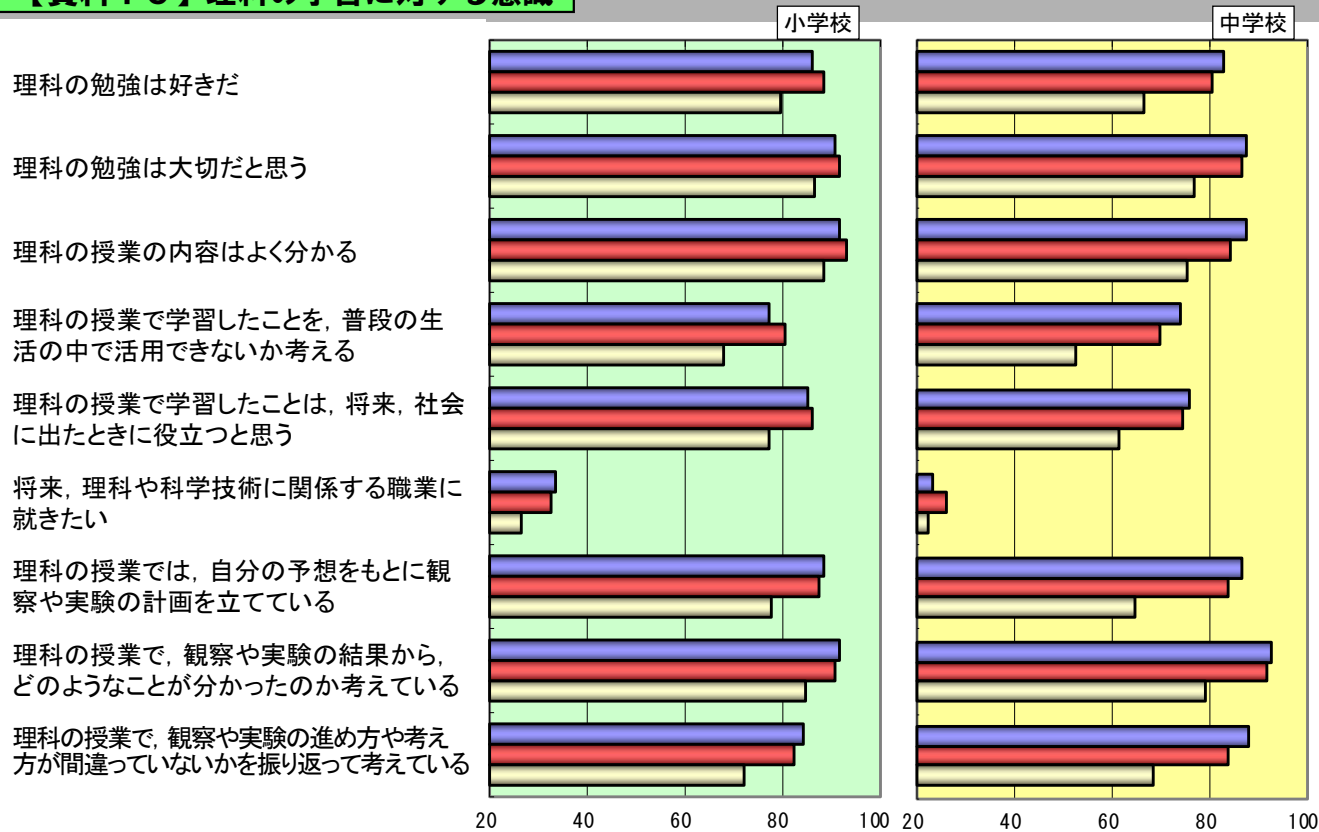


- 算数・数学に関するほぼ全ての質問項目において、国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・将来、社会に出たときに役立つと思う
 - ・問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える
 - ・公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
- 算数・数学を学ぶ価値、粘り強く取り組むこと、主体的に取り組むこと等を意識している児童生徒が多いことがうかがえる。
- 全国や本県の割合と比べると高いが、「算数・数学が好き」の項目が、他の項目と比べ低くなっており、ICTの効果的な活用など更なる工夫改善を図っていきたい。

IV 学習環境に関する調査の結果

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料13】理科の学習に対する意識



- 中学校理科に関するほぼ全て質問項目において、国や県の平均に比べ良好な状況にある。
- 特に成果が顕著な項目は、
 - ・自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
 - ・観察や実験から、どのようなことが分かったのか考えている
 - ・観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える
- 「秋田の探究型授業」が授業の中で展開されており、児童生徒の学びに結び付いている。
- 全国的な傾向ではあるが、将来理科や科学技術に関する職業に就きたい児童生徒が少なく、理科好きから理科系を目指すキャリア教育の充実を図っていきたい。



V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 朝食を毎日食べる。(小学校国語・中学校数学・中学校理科)
- ◎毎日、同じくらいの時刻に起きる。(小学校国語・小学校理科)

【学習習慣・学習環境等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎読書は好きだ(小学校国語・小学校理科・中学校国語)

【ICTを活用した学習】〈相関がみられた主な項目〉

- ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。(小学校数学・小学校理科)

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

『国語』

- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ。(小学校国語・小学校理科)
- 国語の授業の内容はよく分かる。(小学校国語・小学校理科)

『算数・数学』

- ◎算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。(小学校国語・小学校算数・中学校数学)
- ◎算数・数学の授業の内容はよく分かる。(小学校国語・小学校算数・小学校理科・中学校数学・中学校理科)
- ◎算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。(小学校国語・小学校算数・小学校理科・中学校数学)
- ◎算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ。(小学校国語・小学校算数・小学校理科)
- 算数・数学の勉強は好きだ。(小学校算数・中学校数学)

『理科』

- ◎理科の授業で、観察や実験の結果からどのようなことが分かったのか考えている。(小学校理科・中学校国語・中学校算数)
- 理科の授業の内容はよく分かる。(小学校理科・中学校理科)

【自己有用感・規範意識等】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎人の役に立つ人間になりたい(小学校国語・小学校算数・小学校理科)
- ◎自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。(小学校算数・小学校理科・中学校数学)
- ◎いじめは、どんな理由があってもいけない。(小学校国語・小学校算数・小学校理科)
- 先生はあなたのよいところを認めてくれている。(中学校国語)

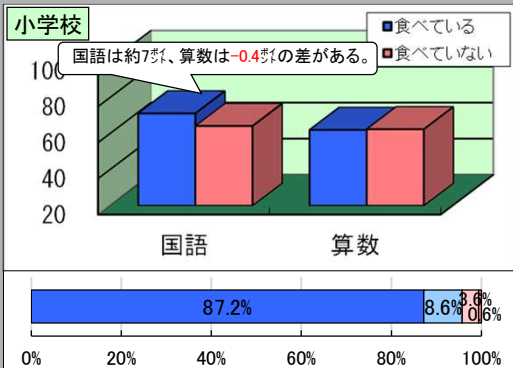
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

2 相関

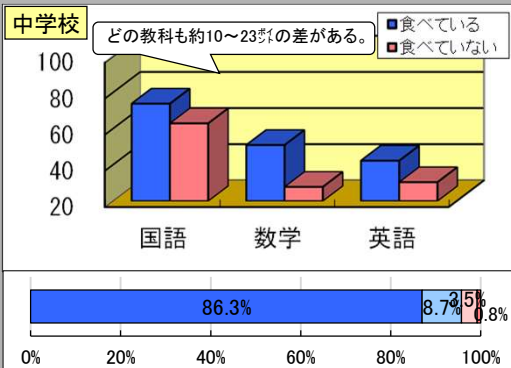
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

【生活習慣等】

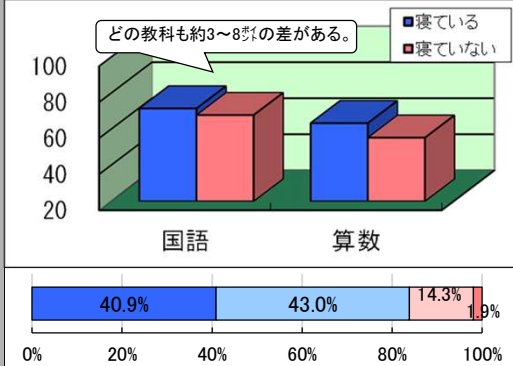
【朝食を毎日食べていますか】



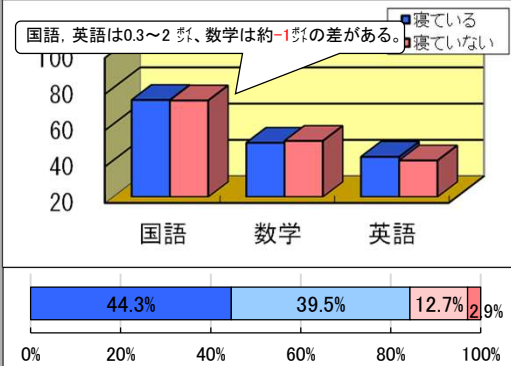
【朝食を毎日食べていますか】



【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】



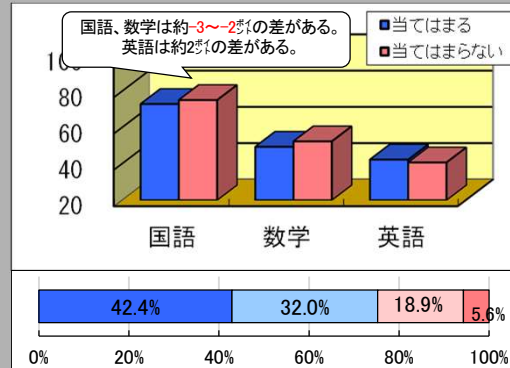
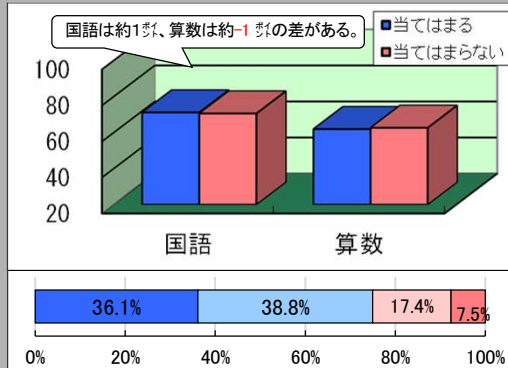
【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】



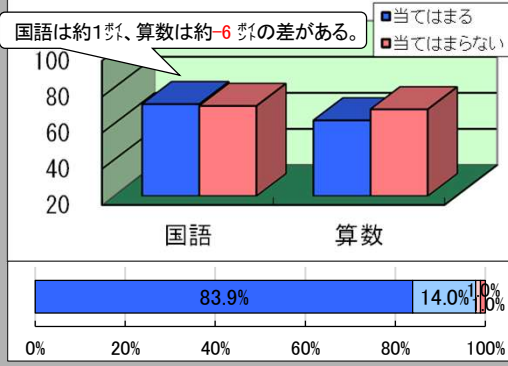
【自己有用感・規範意識等】

【資料14】

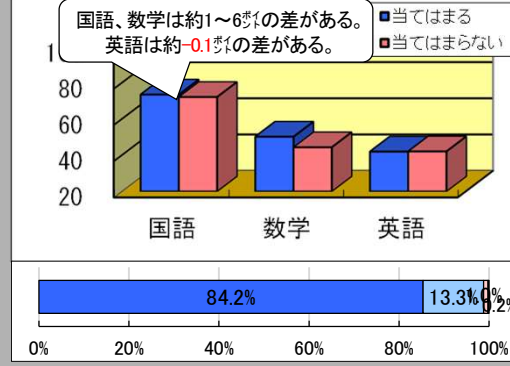
【困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか】



【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】



【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】



○「朝食を食べている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、小学校算数を除いて平均正答率が高い。特に中学校において相関が顕著である。

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に中学校において相関が顕著である。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

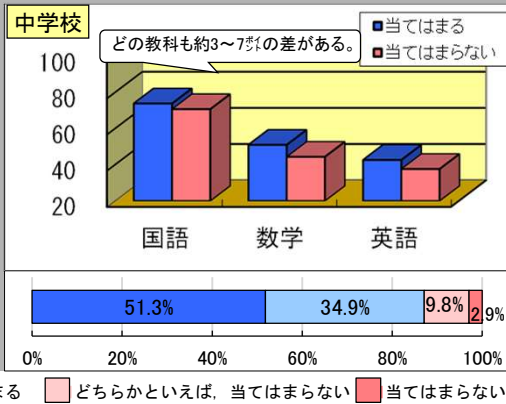
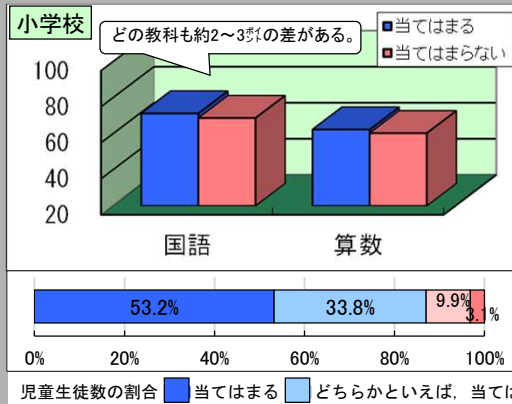
V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【自己有用感・規範意識等】

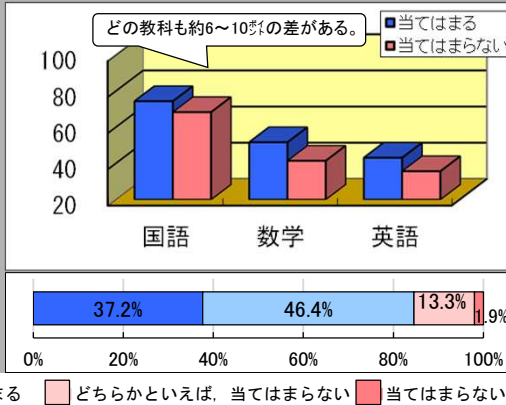
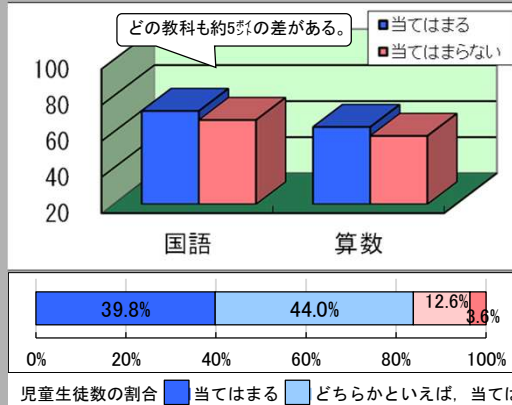
【資料15】

【学校に行くのは楽しいと思えますか】



【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか】

【質問番号(13)】



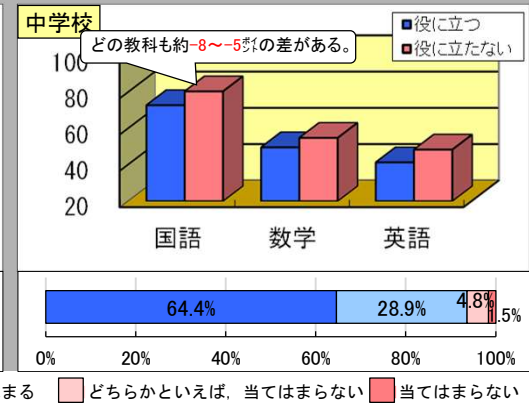
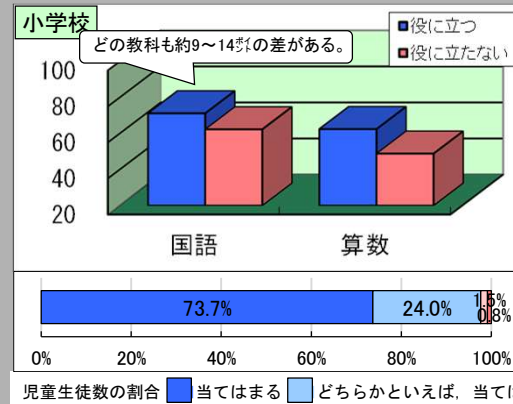
- 「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【ICTを活用した学習】

【資料16】

【学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思えますか】

【質問番号(小-30、中-34)】



- 「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、ほぼ全ての教科において平均正答率が高い。特に、小学校において顕著である。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

【調査問題への取組】

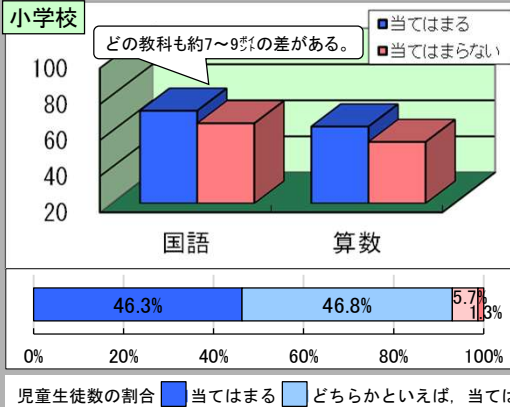
〈国語〉

【資料17】

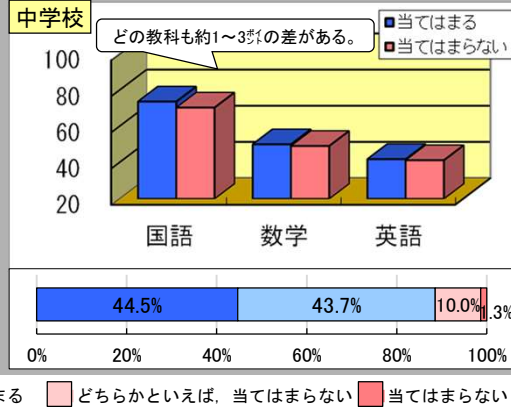
〈算数・数学〉

【資料18】

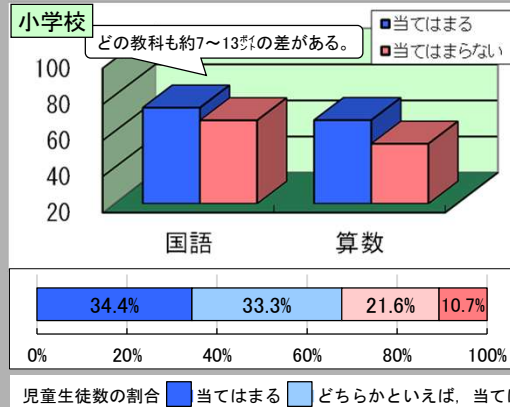
【国語の授業の内容はよく分かりますか】



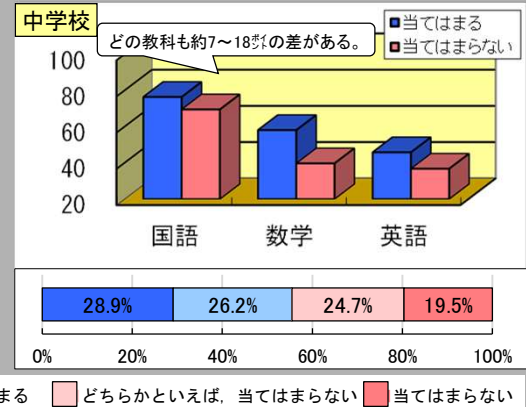
〈質問番号(小-45、中-49)〉



【算数・数学の勉強は好きですか】

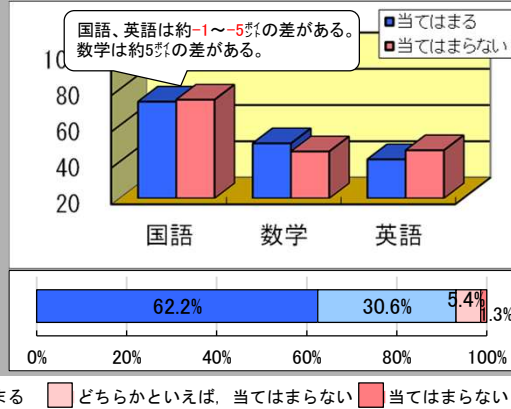
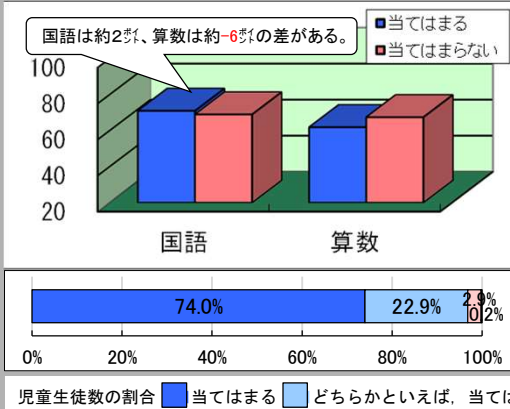


〈質問番号(小-51、中-55)〉



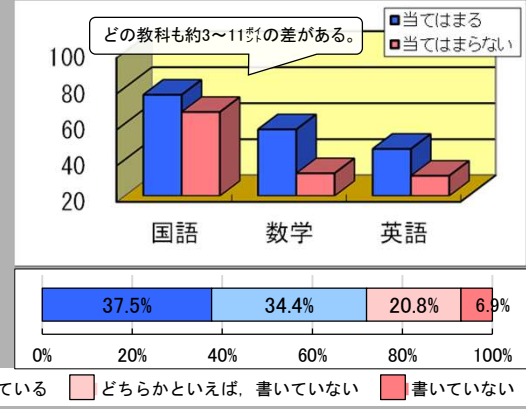
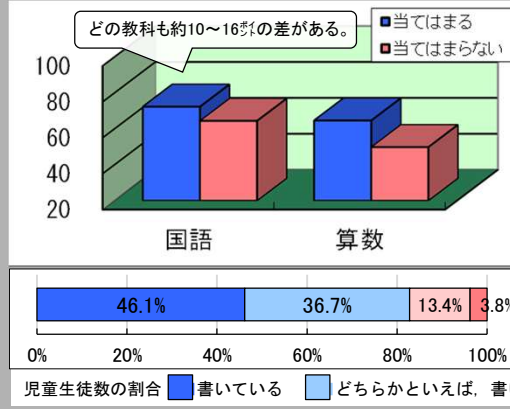
【国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか】

〈質問番号(小-46、中-50)〉



【算数・数学の授業の内容はよく分かりますか】

〈質問番号(小-53、中-57)〉



- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に肯定的な回答をした児童のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

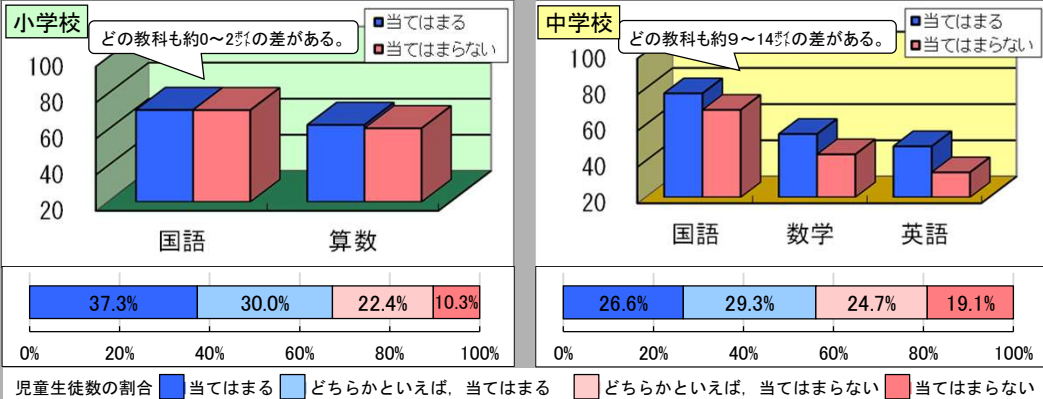
- 「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

V 学習環境と学力調査とのクロス分析

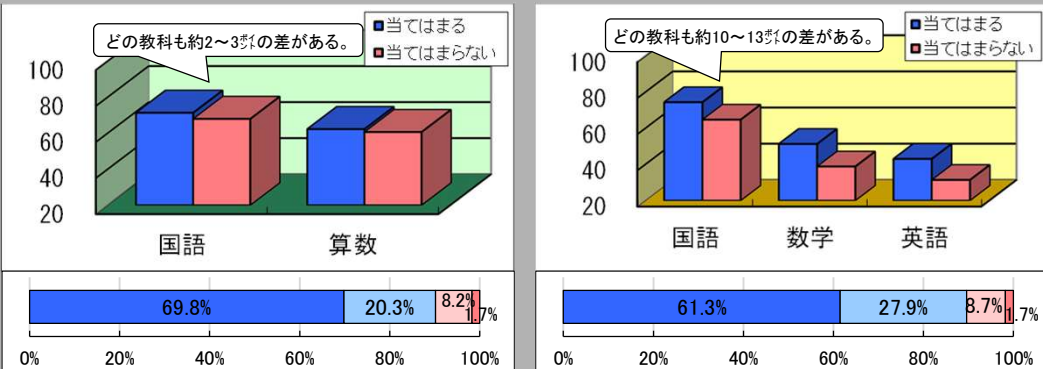
〈英語〉

【資料19】

【英語の勉強は好きですか】



【英語の勉強は大切だと思いますか】

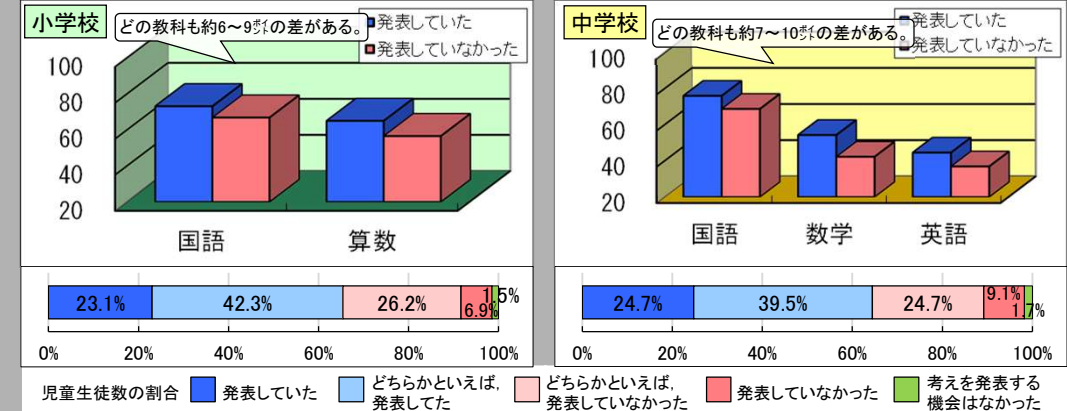


○「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」に肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

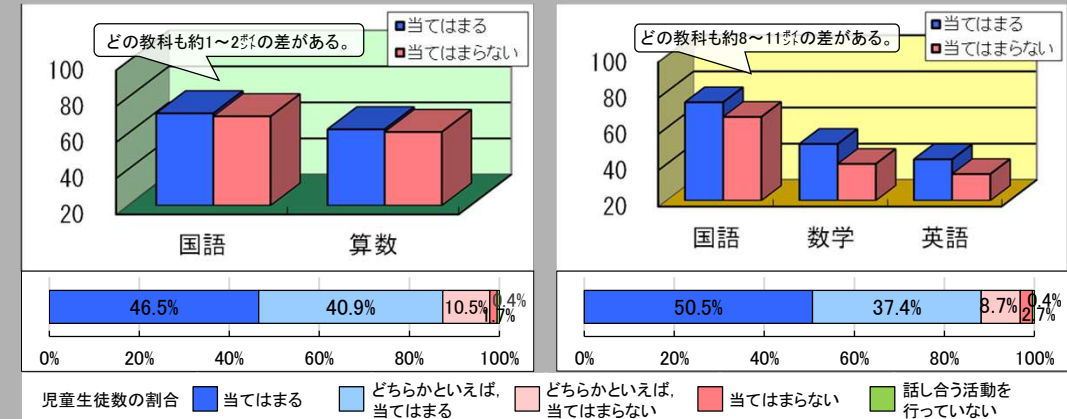
【主体的・対話的で深い学び】

【資料20】

【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や組み立てなどを工夫して発表していましたか】



【友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】



○昨年度までの授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実感する経験があると肯定的な回答をした児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。
○秋田の探究型授業を意識した先生方の不断の授業改善によるところが大きく、これまでの取組が成果として表れていると思われる。

Ⅵ 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫改善等に関して，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 家庭や地域に開かれ小・中学校の接続を意識した教育課程の編成，児童生徒の学び方，生き方等に関わる指導，教職員研修等に関しても，小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く，各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導 - 1

※R4年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

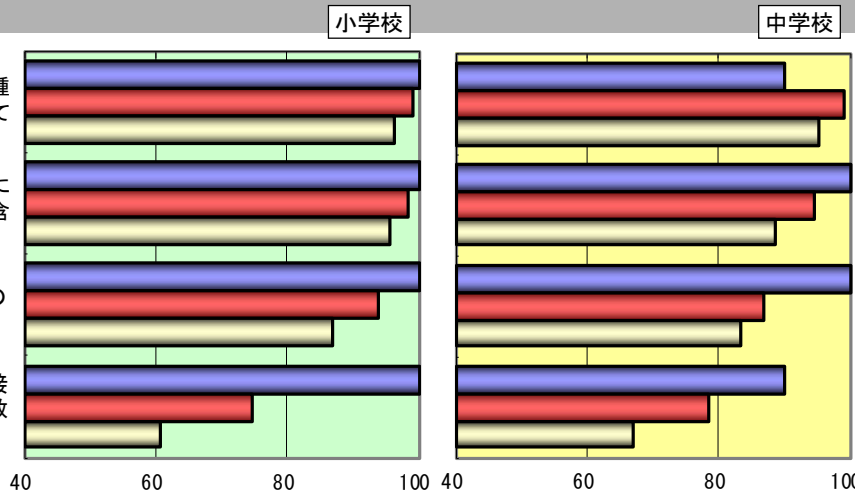
教育課程の編成

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

指導計画の作成に当たっては，教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っている

近隣等の小・中学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行った



【資料21】

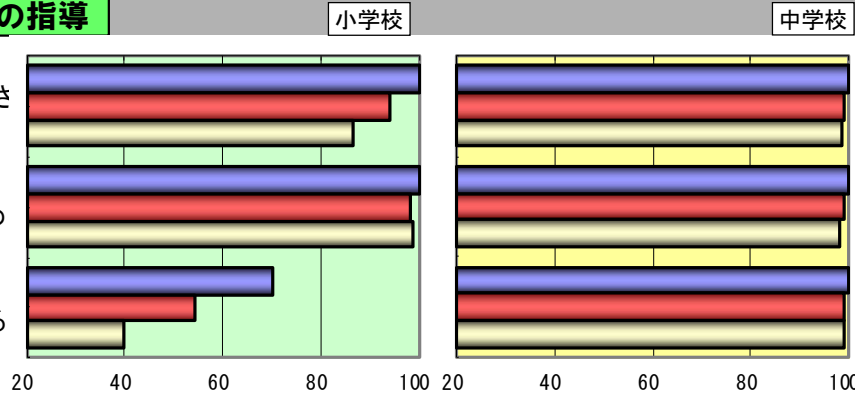
- 「教育課程に関する共通の取組を行った」について，小・中学校共に全国及び県を大きく上回り，良好な状況である。
- 指導計画作成に当たっては，小・中学校共に教育内容と地域の人的・物的資源等を有効に活用している状況にある。

自己有用感の醸成，生き方等の指導

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校生活の中で，児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った

職場見学や職場体験活動を行っている



- 児童生徒に夢や目標をもたせ，よい点や可能性を見付けて褒めるなど，自己有用感の醸成に努めていることがうかがえる。
- 「職場見学や職場体験活動を行っている」について，中学校では100%，小学校でも60%で実施されており，全国や県を上回っている。

Ⅵ 学校質問紙調査の結果

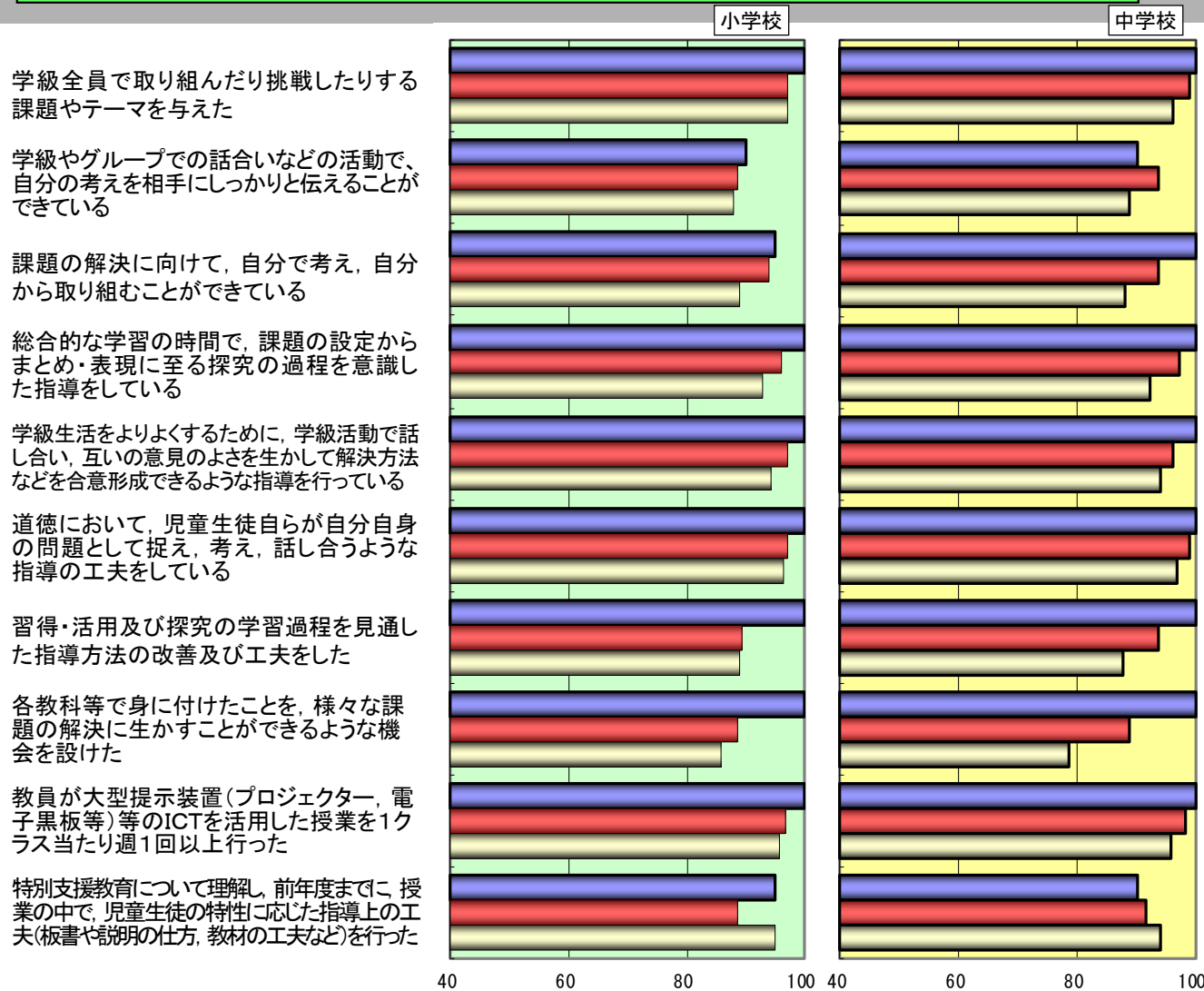
(1) 学習指導－2

※R3年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

学習指導（学習規律の定着、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、ICTの活用 等）

【資料22】



■ 大仙市
■ 秋田県
■ 全国

- 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組むことができる」において、小・中学校共に100%行われている。
- 「総合的な学習の時間で探究の過程を意識した指導をしている」において、中学校で100%行われている。
- 学級活動で話し合い、合意形成を図る指導や、道徳において自分自身の問題として考え、話し合う指導の工夫が、小・中学校で100%行われている。
- 小・中学校において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫や教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会の設定について、全国や県の平均を上回っており、活用・探究を意識した授業改善が実践されている。
- 教員におけるICTの活用については、小学校で、全国や県の平均を下回っているが、学校教育情報化の推進により、今後の改善が図られるものと期待したい。
- 特別支援教育についての理解、児童生徒の特性に応じた工夫については、本県や全国の平均を下回っており、児童生徒の発達を踏まえた指導に向け、研修を継続していきたい。

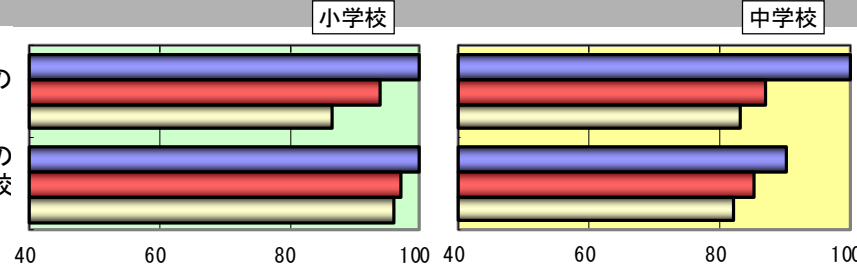
VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

家庭や地域との連携

教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている

保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料23】

○保護者や地域の方の学校運営への参加に係る項目では、小学校では100%行われ、中学校では全国や県を上回っている。

(4) 学校の研修体制

教職員の研修等

模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

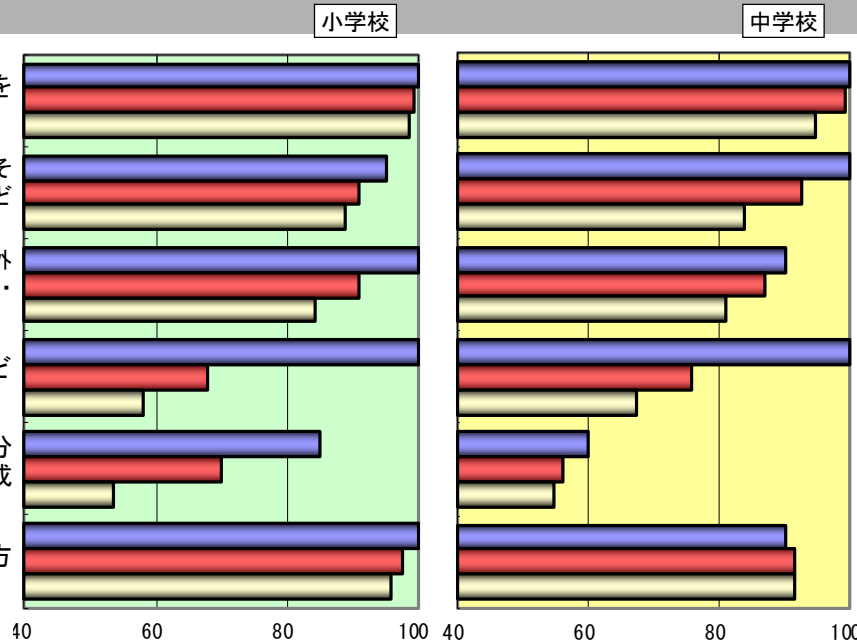
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している

近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど合同して研修を行った

令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある



【資料24】

○小・中学校共に校内外での研修を積極的に行っている。
 ○授業研究に対して小・中学校が合同で研修を行うなど連携が図られており、全国や本県の平均よりも高い状況にある。
 ○令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有する項目では、小・中学校共に全国や県を大きく上回っている。

VI 学校質問紙調査の結果

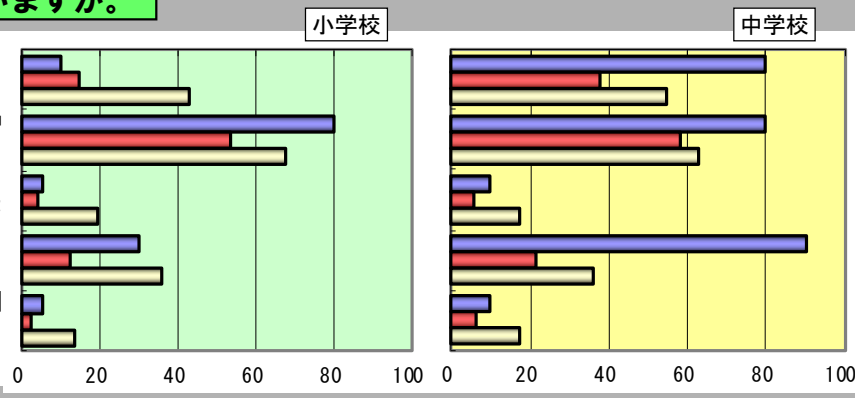
(5) 令和4年度 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器についての調査

【「ほぼ毎日」+「週3回以上」+「週1回以上」】の 市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

以下の用途でどの程度活用していますか。

【資料25】

- (1)不登校児童に対する学習活動等の支援
- (2)特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援
- (3)外国人児童に対する学習活動等の支援
- (4)児童の心身の状況の把握
- (5)児童に対するオンラインを活用した相談・支援



○学校の臨時休業等の期間中、教科書に基づく学習内容の指示や学校が作成したプリントなどによる学習により対応している。
●今後の非常時発生時には、タブレット端末の活用を含めて、より効果的な対応が期待される。



(6) 令和4年度 新型コロナウイルス感染症の影響

【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容や方法で実施した」+「新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更して実施した」】の 市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

以下の用途でどの程度活用していますか。

【資料26】

- 運動会・競技会・球技会
- 音楽会・合唱コンクール
- 学芸会・文化祭
- 遠足
- 芸術鑑賞会
- 職場体験活動
- 集団宿泊活動(修学旅行も含む)
- 授業参観・学校公開

